

## 履歴書の性別欄 #なんであるの

大阪教育大学 神村 早織

進学と就職は、どちらも人生の大きな節目である。進学の際に必要なのが入学願書だが、府立高校の入学願書から性別欄が廃止されたのをご存知だろうか。1999年春の入試から大阪府と福岡県が廃止し、翌年には北海道から九州まで多くの自治体が廃止を決定してその動きは全国化している。そもそも入試選抜においてその能力を判断する上で性別は不要である。また、戸籍上の性別に違和感を持つトランスジェンダーの受験生がいることを認識したならば、当然改善されるべきことだろう。私たちの生活の中では、無意識のうちに、必要のない個人情報収集が行われている。今、全国の自治体では様々な行政文書の見直しが行われ、性別欄の廃止が進んでいる。これまで何か文書を書くたびに性別欄に○をつけてきた「当たり前」の風景が変わりつつある。

次に、就職の際に必要なのは履歴書だ。履歴書はかつて「社用紙」と呼ばれ、各企業が独自の用紙を作成しており多くの差別的な選考に利用されていた。「社用紙」では、家族関係、家族の勤務先、持ち家か借家かなど、そしてその中に本籍地を記載させることも常態化しており、その中で就職差別を受け、夢を絶たれた生徒も多くいた。高校の校長先生たちの全国組織や生徒たちが立ち上がって、違反項目を削除した共通の応募用紙をつくる運動が起きた。その結果、新規高卒者は「全国高等学校統一応募書類」を用いることとなり、また、新規大卒者にも「新規大学等卒業予定者用標準的事項の参考例」が示されている。「全国高等学校統一応募書類」はその後何度かの改訂を行い、1996年には「本籍(都道府県のみ)」欄と「家族構成」欄、「胸囲」「色覚」欄を、2004年には「保護者欄」を削除しており、次は「性別欄」の削除が課題となっていた。

今年、NPO 法人「POSEE」は、インターネット署名を活用して、「履歴書から性別欄をなくそう #なんであるの」という運動をはじめた。署名の宛先は、経産省、厚労省、経団連、日本規格協会である。「POSEE」は、労働や貧困問題に取り組む団体である。性別を尋ねる合理的理由がないのに日本の履歴書にはどうして性別欄があるのかという疑問であり、トランスジェンダーであることを理由に公正な採用を受けることができなかった当事者の声を受け止めて起こした運動である。

ところで、宛先にある「日本規格協会」とは何か。これは、皆さんがどこかで見たことのある「JIS」マーク、日本工業規格に適合している製品につけられるマークを付与する組織である。「日本規格協会」が例示として、性別記載のある履歴書の書式を示しており、多くの企業がそれに倣って履歴書を製造しているのである。1万人もの署名が集まった頃、「POSEE」は経産省と日本規格協会を訪問して、署名を手渡し、要望を述べたという。その結果、日本規格協会は、性別や顔写真の欄があった JIS の履歴書の様式例を取りやめると公表したのだ。大手の文具メーカーも、これにならい、性別欄のない履歴書の作成を検討しているようだ。当たり前を覆す。これからの履歴書は、いよいよ個人の属性ではなく、能力と個性を問うものに変っていくのではないだろうか。